

Tel:099-285-7285 Fax:099-285-7286

Mail:ka-kumiai@leaf.ocn.ne.jp HP:http://ka-kumiai.jp/

2022年度 第1回団体交渉について-----1p～2p

第1回団体交渉について

2022年9月20日付、中央執行委員長名で、学長宛に団体交渉の申し入れを行った。要求項目を2分割し、下記の10件を記載することになった。要求事項の具体的な内容については鹿児島大学教職員組合ホームページ(9月20日付)で公開されているので、ご関心のある方は参照いただきたい。

I. 人事関係

1. 「機構」や「学内共同教育研究施設」における人事候補者決定手順の開示
2. 大学院手当の見直し
3. 新年俸制の是正
4. アルバイト等の雇用制度の改善
5. 人件費ポイント削減に伴う今後の大学運営の早急な改善
6. 今後の個别人事に関する全学方針の早急な改善

II. その他

7. 理事及び大学管理職の過去5年間の個別実績開示
8. 勤務時間・休暇管理システムの導入の目的と今後の運用方針について
9. 休暇の取得について
10. 法文学部棟周辺の道路環境整備および門の設置

申し入れ文面の作成は、前執行部が作成した原案を加筆・修正する形で行われた。

当初は、①6月に開催された総会において、以前に取り上げた交渉事項をさらに掘り下げるような要求をしなかった場合、解決しなくてもよいと組合は判断したと執行部から解釈されるため、本部から有効な回答が得られていない部分を安易に取り下げるのではなく、しつこく交渉して欲しい、というニュアンスの意見が出されたこと、②早めの交渉に入り、今の執行部の任期中に複数回の交渉に臨んだ方が望ましいと考えたので、このままの提出をしようと考えていたが、人事事項の4、5、6について現執行部から改定を希望する意見が出たことで、対面会議、メール会議を併用する形で各委員の納得感がより高まる文面案を探ることになった。

議論を進める過程で、人事のあり方、具体的には「内部昇任」について交渉事項に含めるか否かについては委員間の隔たり(その差は、とりわけ文系教員と理系教員であったと思われる)が大きく、最終的に当該箇所については前回交渉の流れを引き継ぐという選択肢を取り下げ、当初案と比較して、人事制度の運用と本学の競争力強化を関連づけながら要求するという基調が高いものへ改定された。また、要求事項の説明文に「同一労働同一賃金」の文字が入ることになった。この点は、現執行部の特色が大きく出た点になったと思われる。

団体交渉の要求に年度ごとの変容があることは、鹿児島大学教職員組合の中央執行委員会が終身制ではなく任期制であることの証左であり、多様な組合員の意見が長いタイムスパンのなかで反映されていく仕組みであることに起因するものである。

7月に原案を審議し、各部局の要求事項について中執委員を介して募集した。その結果、出退勤システムについて「実際にこのシステムを導入することで業務負担が改善されているか。また、勤務時間の情報をどのように管理するのか」という具体案が挿入されることになった。また稲盛記念館駐車場の設置にともなう、「法文学部棟周辺の道路環境整備および門の設置」が追加されることになった。9月の中央執行委員会で各要求項目の成案をみ、2週間の各支部での回覧を経て、9月20日付の文面を本部に提出した。執筆時点(11月7日)で団体交渉の日取り調整に関する連絡は来ていない。与えられた任期も短いので、現在第2回団体交渉に向けて現執行部の色がより出た交渉案を作成中である。

各支部への回覧の過程で、理学部、水産学部、農学部からつぎの団体交渉に向けて、複数の意見が出された。詳しい説明は割愛するが、複数学部で一致した点があるもののみ紹介すると、事務処理、提出書類の手続き簡素化があげられる。人を増やして欲しいというだけではなく、人数に見合った水準にまで業務を減らして欲しいという声もあるのではないだろうか。それは仕事に対して「ラクをしたい」というよりも、「継続させたい」という場合の方がより多いのではないかと推測される。

末尾ではありますが、現場の多様な意見を反映させるため、組合員の皆様には、積極的に文案の作成にご協力いただければ幸いです。

書記長

